

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

②施設・事業所情報

名称：ララランド井土ケ谷	種別：認可保育所
代表者氏名：高梨 朱美	定員（利用人数）： 67名（70名）
所在地：〒232-0051 横浜市南区井土ケ谷上町13-18	
TEL：045-334-7446	
ホームページ： https://la-la-land.co.jp/	

【施設・事業所の概要】

開設年月日	2020年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）	株式会社LaLaLand	
職員数	常勤職員： 14名	非常勤職員： 14名
専門職員	保育士 21名	栄養士 4名
	調理師 1名	
施設・設備 の概要	(居室数)	(設備等)
	保育室6室、調理室1室、事務室1室、相談室1室、医務室1室、職員休憩室1室	多目的トイレ、乳児用トイレ、おむつ交換・沐浴室、幼児トイレ、パントリー、エレベーター1基、屋上園庭

ララランド井土ケ谷保育園は、京浜急行線井土ケ谷駅から徒歩で8分ほどの住宅地の中にあります。近くには、大岡川の川べりや大小の公園があり、子どもたちの散歩コースとなっています。園は、2020年（令和2年）4月に株式会社LaLaLandによって設立されました。法人は、他に横浜市内で認可保育園を5園、逗子市で企業主導型保育園1園運営しています。鉄骨筋3階建ての園舎は明るく日当たりがよいです。屋上には園庭があり、夏には子どもたちが水遊びを楽しんでいます。

定員は67人（生後57日～5歳児）、開園時間は、平日（月曜日～金曜日）は7時～20時、土曜日は7時30分～18時30分です。

③理念・基本方針

保育理念

自分の未来を創造できるこどもに

保育目標

- ・安心感の中で穏やかで安定した子ども
- ・いつも自分を精一杯表現しようとする子ども
- ・仲間、家族を大切にし、一緒に生活を創り出すことを喜ぶ子ども
- ・違いを認め合い楽しめる子ども
- ・より共感する力を持った思いやりのある子ども

④施設・事業所の特徴的な取組

環境：レτζョ・エミリアの教育を基に、主体性を育てる保育をしています。子どもの「やりたい」の声を拾い、保育に繋げていくようにしています。一斉に何かをする保育ではなく、小さな集団からスモールステップで積み上げています。園バスを所持しているため、4・5歳児は月に2回、3歳児は月に1回弱、様々なフィールドに出掛けて農業自然体験やバスで子どもたちの行きたいところに遠足に行ったりします。農業自然体験では、4月にたけのこ掘り、5月に田起こし・田植え、9月に収穫・脱穀、2月に羽釜炊飯でおにぎり作り、6月ジャガイモ掘り、10月さつまいも掘り、11月サトイモ掘りをして、フライドポテト、焼き芋（ふかし芋）、豚汁などにして食べます。収穫から喫食までの食育に繋げています。その他、川遊び、磯遊び、森林ハイクなど自然遊びも行っています。それ以外のバスが利用できる日は、子どもたちの興味・関心に合わせて大型遊具のある公園や水族館、動物園、室内展示施設等に出かけ、園内ではできない体験をしています。また、英語専任の常勤社員を1～2名置き、日本語と英語を使って保育を行っています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年6月20日（契約日）～ 2023年3月9日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回

⑥総評

◆特長や今後期待される点

【特長】

・子どもたちはそれぞれの思いを素直に表現し、自分らしく園生活を過ごしています

園の保育目標として「安心できる環境の中、子どもたちの興味・関心に寄り添い、やってみたいが実現できる保育園」を掲げ、子どもの主体性を育てるようにしています。保育室には、子どもの発達や興味・関心に合わせたおもちゃや絵本、教材などが置かれていて、子どもが自由に好きな遊びを選んで、友だちとあるいは一人で遊びを広げられるようになっています。保育室の環境を子どもの姿に合わせて随時入れ替え、子どもが今やりたいことができる環境を整えるようにしています。保育士は子どもの遊ぶ様子を見守り、子どもと一緒に遊んだり、子どものできたことを一緒に喜んだりしています。自分で遊びを見つけられない子どもには寄り添い、一緒に遊びを探しています。保育観察時にも、友だちの細かな粘土細工の真似をして皆で粘土で様々な物をおしゃべりしながら作ったり、自分が作ったブロック作品を友だちの人形遊びに持ち込んでお家ごっこをしたりと、子どもたちが自由な発想で遊びを広げている様子を見ることができました。4歳児の文字への取り組みを見て3歳児もひらがなで絵馬にお願いを書いてみるなど、異年齢での学びもあります。

晴れていれば毎日近隣の散歩にでかけ、身体を思いっきり動かし、季節の自然に触れています。幼児は農業自然体験として、田植えや稲刈り、芋ほりなどの体験をしています。行事は特別なものを用意するのではなくクラスの中で培ったものを発表する場としていて、運動会の5歳児のソーラン節では、それぞれの子どもが役割を持ち責任感を感じて参加できるように工夫しています。このような取り組みの結果、子どもたちはお互いの違いを認め、それぞれの思いを素直に言葉や態度で表現し、自分らしく園生活を過ごしています。

・保護者と密にコミュニケーションを取り、安心して子育てできるよう支援しています

園は、保護者が安心して子育てができるよう保護者との関係づくりに力を入れています。朝夕の送迎時には、保護者と子どもの様子について情報交換し、相談に応じています。連絡帳や保育アプリでも子どもの様子や園の取り組みを積極的に発信し、保護者の理解が深まるようにしています。年2回の個人面談のほか、随時面談に応じています。このような取り組みを通して、保護者と信頼関係を築き、保護者がいつでも相談できるようにしています。保護者からの相談には、担任だけでなく相談内容に応じて園長や主任、栄養士が対応し、保護者の思いを受け止めて専門性のあるアドバイスをしたり、関係機関を紹介するなどし、保護者が安心して子育てできるよう支援しています。

【今後に期待される点】

・園と職員、職員間でのコミュニケーションを深め、保育の方向性を共有していくことが期待されます

園では、クラス会議や職員会議で理念に基づき保育のあり方について話し合いを重ねています。年度末には、職員一人ひとりの自己評価を基に話し合い、園としての自己評価を作成し、園の理念に沿っているかを確認しています。園内研修でも取り上げ、グループワークをするなどしています。ただし、職員の交替が続いたこと、様々な経歴、経験の職員が集まっていることなどがあり、お互いの保育についての話し合いを深め、それぞれの保育観のすり合わせを行うまでには至ってなく、園としても課題ととらえています。職員会議や園内研修、面談の方法を工夫して園と職員、職員間のコミュニケーションを深め、理念を共有して、園が目指す保育の姿を作り上げていくことが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価を受ける事により、日々の保育運営についてシート項目を1つ1つ確認しながら、振り返ることができました。日々、子どもたちの保育をしていく中で、職員間で話し合い保育の方向性を作ってきましたが、細かく分析するとまだまだ足りていない所やもっとよく出来る所を見つけることができました。

また、保護者の皆様にもアンケートにご協力いただきまして、感謝いたします。お子様を安心して預けていただくためにも、貴重なご意見をいただき今後の園運営に活かして参ります。

園の今後の課題として、中長期計画をさらに具体的にするため、法人と連携して改善計画を明確にし、取り組んでいきます。

また、職員のキャリアパスを明確化し、職員のスキルアップと離職率の低下をすすめていきます。職員の研修も積極的に行えるよう、安定した職員体制を作っていきます。

子どもたちの人権を保障するために、多様性を認め、自主性を育てる保育を目標として保育を行ってきましたが、さらに個人情報保護の他、子どものプライバシー保護に関するマニュアルを作成し、子どもたちを一人一人尊重できる関わりを行っていきます。

そして、園をより多くの方々に知っていただくために、会社全体のパンフレットだけでなく、本園の保育内容や保育に対する思いを発信できるように考えていきます。

ララランド井土ヶ谷
園長 高梨 朱美

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり